

2025 年度
多文化コミュニケーション学科
総合型選抜入試課題

次の課題AまたはBから1つ選び、各課題の指示に従って述べなさい。

注意事項

○手書きの場合

課題レポート記入用紙にペンで記入しなさい。

○パソコンで作成する場合

下の要領に従って作成すること。

- ・ A 4 縦の横書き。1 枚。
- ・ 1 行目に選択した課題の記号、氏名を書く。
- ・ 本文については 1 行 4 0 文字の 2 0 行で作成。

課題A

長崎県観光連盟の嶋崎真英会長（長崎自動車会長）は16日、長崎県による統合型リゾート施設（IR）の整備計画を国が不認定としたことについて、「観光産業の地域間競争が激化するなか、インバウンド（訪日外国人）の誘客戦略を含めた振興策の見直しなど早急な対応が必要だ」と訴えた。衆院予算委員会が同日長崎市内のホテルで開いた国の2024年度予算案に関する地方公聴会で考えを明らかにした。

テーマパークのハウステンボス（長崎県佐世保市）を予定地としていた長崎県のIR計画。国側が資金調達の確実性を裏付ける根拠が不十分なことなどを挙げたことについて、嶋崎会長は「事業継続性に疑義があって不認定になったと個人的に受け止めている」と述べた。

さらに「（計画認定で）国が地方に求めるハードルが高いと思う。既にIRの要件をかなり備えていると思われるハウステンボスに、6000席の国際会議場がさらに必要なのか」と疑問を投げかけるとともに「要件の見直しを考えていただきたい」と求めた。

公聴会では、連合長崎の岩永洋一事務局長も意見を表明した。若い世代を中心とする人口流出について「賃金水準が東京や大都市部と比べると大幅に低い」と指摘。賃金格差も拡大しているとして「最低賃金の引き上げも必要だ」と訴えた。

長崎県の公聴会で団長を務めた加藤勝信前厚生労働相は会合終了後に「クルーズ船が戻るなどインバウンドが増えている中で（海外航空会社の増便には）地上業務の方々の確保に課題があると認識した」と語った。

（出所）「長崎県観光連盟会長「インバウンド戦略立て直しを」 2024年2月16日 日本経済新聞インターネット版より引用

課題

以上の文章を読みあなたの考えるインバウンド観光の活性化策を800字以内で論じてください。

課題B

スペイン北東部カタルーニャ自治州で新学年が始まった今年9月から、5校の公立校が日本語の授業を選択科目として採用した。現地で普及活動に取り組む日本の関係者も「過去に例がない広がりだ」と驚いている。同州で、急速に高まる日本語熱の背景には何があるのか。

「きり一つ、れーい、ちゃくせーき」

バルセロナ近郊にあるムンサラット・ロッジ中高等学校。中学2年の生徒を対象に新たに開講した日本語の授業は、日本の学校と同じ風景から始まる。日本語のかけ声に合わせて17人の生徒が頭を下げると、教諭のセルジ・ガルセス・クララムンさん(49)が「みんな元気?」と軽快に日本語で話しかけた。

10月18日の授業は、あいさつがテーマだった。漫画風のイラストを使った会話向けの教材もあり、生徒たちは日常生活の場面を想定しながら、「こんにちは」や「ありがとう」などの言葉を学んでいく。

同校では必修の英語以外の外国語は、昨年までは選択科目としてフランス語と古代ギリシャ語、ラテン語しかなかった。そこに今年から中学2年の選択科目として日本語が加わった。学年の生徒の半分に当たる60人が日本語を選択。来年度には他の学年でも開講を計画している。生徒のアニョル・パスクオルさん(13)は「難しいけど、テレビゲームの『ゼルダの伝説』をいつか日本語でプレーできるようになりたい」と意気込む。

日本語の普及を進める国際交流基金マドリード日本文化センターによると、スペインでは、義務教育の課程で日本語が正式に採用されたことはなかった。だが、カタルーニャ自治州で9月、計5校が中学生向けに日本語を正式な選択科目として採用。2年前に試験導入していた学校を合わせて計6校の公立校で学べるようになった。

受け入れが進む背景の一つにあげられるのが、1990年代にテレビで『ドラゴンボール』などの日本アニメを見た人たちが親世代になり、日本への理解のすそ野が広がったことだ。同基金の21年時点の調査によると、スペイン全体の日本語学習者数は9383人で、欧州ではフランス、英国、ドイツに次ぐ4番目。人口当たりの学習者数ではドイツを抜いた。ムンサラット・ロッジ中高等学校のヨランダ・カルデナス校長は「生徒たちは漫画やアニメを通して日本に触れるのがもはや日常になっている」と話す。クララムンさんも日本のアニメに魅了された一人だ。「マジンガーZ」を子どもの頃にテレビで見て、日本アニメに初めて触れた。本来は英語の教諭だが、日本語ができるため今年から日英の両クラスを受け持つ。

在バルセロナ日本総領事館の佐藤靖総領事は「カタルーニャは歴史的に地中海貿易で栄えてきた地であり、日本のような遠く離れた外国に関心を持つオープンな文化がある」と話す。

カタルーニャ自治州以外で日本語が広がりを見せるもう一つの要因がある。日本語教育が欧州の外国語教育の基準を取り入れながら進化してきたことだ。国際交流基金は2010年、「聞く・話す・読む・書く」など、異なる外国語の技能の総合的な運用能力を6段階に指標化した「欧州言語共通参照枠(CEFR)」に、日本語レベルの分類を準拠させた。同時に、CEFRが重視する「言語を使って具体的に何がどのくらいできるかを学習の目標にする」という考

え方を日本語の学習にも設定。文法を中心とした学習法を改めて、実社会でのコミュニケーションを中心とした「Can—do(できる)」と呼ばれる新たな学習法の開発に取り組んできた。「欧州標準」を取り込んだ日本語教育は今、日本の外国人労働者受け入れ政策とつながっている。18年に新設された在留資格「特定技能」では、一定の日本語能力が資格許可の条件になってきた。「Can—do」は、東南アジアを中心に就労を目的とした外国人のための日本語教育で、効果的かつ世界標準の学習法として定着している。

技能実習制度に代わる新たな外国人の受け入れ制度の議論が大詰めを迎えている。新制度でも、一定の日本語能力が来日の要件となる見通しで、海外での日本語教育は、さらに重要性を増していく。(バルセロナ=宋光祐)

(出所) 2023年11月22日 朝日新聞朝刊 25面 「スペイン、高まる日本語熱 中学の選択科目次々、アニメ・漫画が入り口」

(課題) 本文の内容を踏まえ、あなたの関心のあるテーマを下記①～③のテーマ群から1つ選び、自身の考えを800字以内で論じてください。

【テーマ群】

- ①海外での日本文化の発信について
- ②日本語教育について
- ③外国人受け入れ制度について

